

福祉施設・事業所における防災体制と災害対応

— 高齢・障害福祉職員研修（防災研修） —

日 時：令和2年1月17日（金） 10:00～16:00

場 所：名古屋市医師会館 6階 講堂

主 催：社会福祉法人 名古屋市社会福祉協議会

目 的：災害に関する基礎知識を学ぶほか、講義や演習を通して防災について自ら考え、社会福祉施設・事業所における適切な防災体制の構築を目指す。

参加者：高齢者・障害社会福祉事業所の施設長、管理者等 70名(11グループ)

講 師：NPO法人 愛知県防災士会 防災士
防災アドバイザー、研修委員

羽田 道信 氏

(藤田医科大学 医療科学部 特任教授)

ファシリテーター：手塚、加藤（和）、原田、宮澤、小林、阿部（6名）

冒頭、手塚副理事長（筆頭総括）より「本日は、阪神大震災から25年を迎えた意義のある防災研修にして頂きたい」との思いを参加者の皆様へお伝えした後、羽田講師から本日のカリキュラムについて説明をしました。

本日の防災研修は、午前の第1部を「クロスロード」、昼休み時間を挟み、第2部を「防災体制と災害対応について」、第3部を「アクションカード作成ワークショップ」と3部構成からなる大きな流れを説明してから「防災研修」へと入りました。

第1部【クロスロード】10:00～12:00

講師からクロスロードを始めるに当たり、「進め方」を参加者に理解して頂いた上で、一斉にグループ単位が歩調を合わせて進むクロスカードへと臨んで頂きました。

まず、グループごとに所属・氏名の自己紹介の時間を設け、そのあとで講師が設問を読み上げ、



カリキュラムを説明する講師



「進め方」を聞く研修生

それに対して自分は、こう判断するというを各自 Yes か No のカードで意思表示をします。出す時は、そのカードを裏向きにして自分の目の前に出し、講師が『オープン』との発声の合図を出し、自分が出したカードを反転させ、その際に Yes と No の数をファシリテーターが把握し、講師へ伝達するという方式で順次進めて行きました。

なお、カードをオープンした後は、なぜ自分はこのカードを選んだか、その選択理由を時計回りにグループ内の一人一人が順番に、簡潔に説明する時間としました。

この設問の内容は、往々にして判断に迷ったりしますが、他の人に相談しないで、自分で即決して Yes か No を判断するゲームとなります。

一つ一つの設問に対して、講師から解説を加えながら、また、どうして自分がその答えを出したのかを、スポットを当てるようにお尋ねしながら、全参加者に対し、理解を深めて頂きながら進めて行きましたところ、9番目の設問を終了した時点で第1部がタイムオーバーとなり、クロスロードに関する一連の資料を配布し、昼の休憩時間とさせて頂きました。

第2部【防災体制と災害対応について】

13:00～13:40

第2部は、座学をメインとした防災研修「福祉施設・事業所における役割分担の明確化と避難行動支援」に関する基本的な知識の会得につきまして、席上配布資料と併せ、パワーポイントを使いながら研修を進めて行きました。



講師の説明を真剣に聞く研修生

まず、近年の自然災害から「多様化」・「頻発化」・「激甚化」が挙げられ、自分の身は自分で守る「自助」の勧めから、生き残った時に周りの人の安全を確保すること、お互いに助け合いの精神が必要であることを備えつつ、介護施設や介護職特有の課題を克服する手立てについても縷々講師から説明しました。

福祉施設や事業所では、夜勤に従事する場合、原則2人体制となっていますが、発災した時に入所者・利用者に対して支援をしなければならない役割を担う際、難しい局面となりやすいので、普段からシミュレーションを考えながら行動することや常日頃から訓練が必要となることを説きました。

その後は、要支援者に合わせた避難支援と移送方法につきまして、具体的に写真を示しながら説明すると共に発災時の対応行動と役割分担につきまして、解説を交え判り易く説明しました。また、4年前に起きた台風10号による岩手県岩泉町の老健施設での被災事例に触れ、刻々と変わる川の増水状況を把握

し、行政や施設管理者が危険を予知して早期、避難をしていれば入所者9名の生命は守られたのではないかとの一石を投じながら、早期判断と具体的に命を守る避難方法について説明をしました。

次に、「プロアクティブの原則」から「危機管理における行動原理」を理解して頂き、緊急時に状況を判断して、自らがスイッチを入れる初動が必要との教えと実効性のある非常災害対策計画の策定をするための具体的項目を掲げ、それを網羅する事が有用性の確保に繋がることを理解して頂き、最後に「災害時リスク・アセスメントシート（課題・対応策整理票）」についての活用方法を説明して第2部を終了しました。

第3部【アクションカード作成ワークショップ】13:50~16:00

第3部では、緊急時の対応と行動指標を考えることをメインテーマに掲げ、ワークショップを進めて行きました。

まず、STEP1でグループ内参加者の中から**進行係**（グループ活動での司会進行・調整を図ります）1名、**仕分係**（グループ内での発表時に附箋を模造紙に仕分けながら貼り付けます）1名、**発表係**（グループでまとめたものを代表で発表します）1名の役割分担を決めて頂きました。

講師からは、アクションカード作成ワークショップの作業に関して出来栄は「できるだけコンパクトで端的に視認性を追及する」ことの条件を満たして頂くよう定義付けをしました。

次にSTEP2では、被害想定を3D的、或いは、ストーリー的に脳内でイメージを膨らませ、STEP3においても地震が発生した時に各自が抱く課題や心配事を5つ挙げて頂き、附箋紙1枚に対し簡潔に書き出して貰いました。

STEP4では、進行係の指示により付箋紙に書かれている内容を1枚ずつ読み上げ、仕分係の担当者は、その付箋紙を受け取り、模造紙に貼り付けて頂きました。その際、内容が類似しているものは、大まかに分類しながら、島を作るような形で貼って頂きました。STEP5では、緊急性と重要度別にカテゴリー化の分類を模造紙の紙面上で行って頂きました。その次にSTEP6では、「施設長・代行者」を筆頭に据え置き、時系列にまとめて頂きました。その過程を経てアクションカードの作成の段階へ作業を移行して頂く条件をユニバーサルデザイン（①初めて見ても使い方がわかる。②使い方が簡単である。③読みやすい、見やすい。）を念頭に置きながら、**①**文章は短く命令形で記載、**②**ながら



カード作成に取り組む研修生

行動は記載しない、③選択肢を用意しない、
④配色、線の太さや文字の大きさを変化・工夫する条件について、講師から説明がありました。

次に、STEP 7の段階でアクションカードを「とりあえず作ろう！」の行程に入り、アクションカードの例を見ながら、グループごとに今まで整理してきた内容を、まずは、A3用紙に下書きして、その下書きに基づきながら、新たな模造紙に転記をしていきました。

最後にSTEP 8では、発表者は、自分が居たグループ内の討議内容や経緯・理由などの説明を加えながら、2分間の持ち時間で、その場に居ながらにして、他のグループの方が時計回りに移動する方式を採用し、横単位のグループ員の方たちは、他のグループの発表を万遍なく聞いて頂くことと、併せ、そのメリットも感じて頂きました。

本日の一連の防災研修を通じまして、それぞれの持ち場で「命を守る防災」に関する体験を活かして頂きながら、今後、起きるであろう南海トラフ地震に遭遇した時、慌てず冷静な判断力を身に付けられ、また、自助にとどまらず、入所者・利用者の生命をも災害から守る使者として、ご活躍されますことを祈念いたしています。



発表者を固定しての発表模様

文責・写真：阿部 健二